

平成 28 年度予算の編成にあたっての町長特記指示事項

1 『環境創造都市ニセコ』の実現に向けて

- 1) 資源と経済が循環するニセコ
- 2) 人の力が発揮され笑顔が広がる「心温かなニセコ」
- 3) 町民のみなさまとともに、みんなで築く「元気なニセコ」

2 まちづくりのための 10 の目標

- ① 農業所得向上対策の実践による夢のある農業
- ② 農業と商工観光が連携し、自律した**循環型経済**の地域
- ③ 水環境を守り、地球環境負荷を低減させる「**環境モデル都市**」
- ④ 教育環境を整備・拡充し、**安心して子育てができる教育**のまち
- ⑤ これまでの社会を創ってこられた高齢者を大切に**する温かなまち**
- ⑥ 医療と福祉の拡充による**安心のまち**
- ⑦ 消防・救急体制整備による**災害に強いまち**
- ⑧ お互いを尊重し、**頑張る人を応援する人の輪**が広がるまち
- ⑨ 地域の産業を育て、雇用と暮らしを守る**内発的産業育成**のまち
- ⑩ 公正で効率的な自治体運営を実践する**地方政府**の確立

3 予算規模の大きな事業の検討・推進及び補助交付金等の確保

- ・地方創生事業の推進
- ・賃貸住宅不足対策への重点対応
- ・住宅用地の確保整備（土地開発公社と連携）
- ・国営緊急農地再編整備事業の推進
- ・省エネ、再生可能エネルギーの導入促進
- ・ニセコ町斎場（火葬場）の整備
- ・ニセコ町幼児センターの拡張整備
- ・道の駅ニセコビュープラザ再整備計画の推進
- ・防災センター（役場庁舎機能を含む）整備計画の推進
- ・ニセコ高校体育館の整備計画検討
- ・近藤小学校の児童数増加対応策の検討
- ・ニセコ町プールの整備計画の推進
- ・ニセコ町運動公園の整備（サッカーグラウンド等）
- ・有島記念公園牧場跡の整備及び活用
- ・中央倉庫地区の整備（排水路整備・用地確保）及び利活用
- ・道路・橋梁・公営住宅・上下水道施設の長寿命化更新
- ・（仮称）学童保育所と放課後児童教室の適正な運営
- ・2次交通 3次交通対策の推進

4 予算作成の基本事項

- ① 「最小の経費で最大の効果を」との旧来型発想から卒業し、住民の福祉向上とニセコ町の活性化のため「最大の効果を最小の経費」で実施するよう発想の転換を。
- ② 時代遅れの「当初予算主義思想から脱皮」し、スピード感を持ってまちづくりや組織改革に挑戦を。
- ③ 「縦割り意識を排除」し、関係課・係との情報共有・連携に勤めること。「たぶん、〇〇だと思うなど推測による議論・結論」は、検討していないことと同じで、かえって危険ですらある。「必ず事実の確認」を行うこと。
- ④ 町の施設整備や備品見積もり等は、自宅（自分のお金）で購入すると同じ視点で、多様な検討を加え、利用者の利便と維持経費等総合的な検討を。
初期投資を安価にではなく、ライフサイクルコストを考えること。
- ⑤ 良い仕事をするうえで、情報の収集と研修・研鑽は、極めて重要である。各課において、職員の資質向上や町のためになす活動については、創意と工夫をしつつ積極的な予算づくりに努力願いたい。
「前例主義での予算づくりから脱皮」を。
- ⑥ 『環境モデル都市』として、地球環境負荷の低減、持続する循環社会
【①物質循環、②エネルギー循環、③経済循環】を基本としての予算づくりを。
- ⑦ 「日本国憲法」「ニセコ町まちづくり基本条例」「ニセコ町総合計画」をはじめとする各種計画を念頭に予算編成を。
- ⑧ 地域にある資源を有効に活用すること、また、地域で頑張っている人を応援することに最大限の努力を。
先駆的な事例＝東川町（地域のモノづくり資源を徹底活用）
木工、家具、彫金、ガラス、塗装、板金等、今現に活動している事業所、人を徹底支援。内発的産業・地元産業を支援する。
- ⑨ 全庁の知恵を結集し、力を合わせて現在策定中の総合戦略を基本に「地方創生事業」を推進する。
- ⑩ 職員の健康・福利厚生・休暇の取得等に十分配慮し、元気で明るい職場を創る。